

郷土館発 郷土館の歴史

今回は、設楽町にある郷土館や資料館などの歴史を振り返ってみます。

設楽町立郷土博物館



昭和三十五年（一九六〇）八月、奥三河郷土館の前身として、萩平の平松雅夫氏の篤志と、大名倉の伊藤正松氏から寄贈された考古資料を基に開館されました。新築開館された建物は、洋風二階建てで階上が展示室、階下が事務室等になっていました。

以後、博物館常任委員会を中心として、田口中学校社会科クラブ・学校関係者・町内有志の方々との協力で展示資料が充実され、考古資料・民俗資料・歴史資料・自然科学関係資料が多数整えられました。

設楽町 奥三河郷土館

（設楽町誌）

昭和五十二年（一九七七）三月、

二階建て、外観は巻き貝状、展示室も円形にして面積を有効に利用するように設計され建設されました。



『ふるさとのくらしとこころを伝える』をテーマに、多くの人たちの努力と協力によって、資料収集・展示作業が行われました。館名の「奥三河」は、旧北設楽郡（設楽、津具、東栄、稲武、豊根、富山）を表しており、私たちの住む郷土を自然・考古・歴史

・民俗の視野で捉えた展示となっています。開館時には、収蔵資料七万点余、展示資料五千点余でしたが、平成五年には収蔵資料八万一千点余、展示資料一万三千点余に増加していました。付属施設として、昭和五十八年にビクターセンターが完成し、平成十四年には、二階を改装して自然資料室がつけられました。

○田口線 電車

昭和四十三年（一九六八）八月

三十一日を最後に廃線となった田口線の車両「モハ一四」を、昭和五十二年五月末に旧田峯駅より移設しました。現在までに全面修理一回と再塗装二回が保存のために実施されています。

○石仏公園

昭和四十七年（一九七二）白山神社裏山に石仏公園が建設されました。当時の収集総数は、四百三十二体でした。（設楽町誌）

津具 民俗資料館

夏目一平氏が国指定重要民俗資料百三十点と民具千二百点及び寄付金を旧津具村に寄付されました。それを受け昭和四十三年に津具村立民俗資料館が建設されました。（津具村誌）



津具 文化資料展示センター

昭和六十二年三月、旧津具村出身で、各界において活躍された七人の方々に関する資料を展示するために、建設されました。

（津具村誌）

新 設楽町 奥三河郷土館

清崎に新築移転し、令和三年五月に開館となります。設楽町及び奥三河の、自然史やくらしとところを、館を訪れる人たちに伝える展示となっています。

（奥三河郷土館長

渡邊 俊也）